



8



6



7



1



2



3



4



5

第26回奥州胆沢劇場「十五の春」幻の小山飛行場」は2月28日、胆沢文化創造センターで行われました。同実行委員会（石川岩夫会長）が主催し、2公演で計1600人の観客が住民手作りの舞台を堪能しました。

今回の原作者は胆沢区南都田出身で奥州大使も務める小原良子さん（71）。「東京都練馬区在住」。公演では「支え合い、助け合う心」をテーマに、第2次世界大戦終戦間近の昭和20年、同区小山地区を舞台に、幻の秘密飛行場建設に動員された学徒たちと、疎開してきた少女らとの心の交流を感動的に描きました。

学徒として動員された当時の県内の生徒らが、劣悪な環境に耐えながらも、若者らしく明るく立ち向かう姿や、白装束をまとったシラミーズといったユニークなキャラクターが登場する場面などが次々と展開されました。

エンディングでは、完成した飛行場に飛行機が着陸。まばゆいライトの光と共に、舞台奥の暗闇の中から飛行機が登場すると、客席からは大きな拍手が送られていました。

主役の千葉良平（学徒）役を務めたのは加藤和樹さん（20）。「胆沢区若柳」。演劇初挑戦ながら、迫真の演技で見事大役を演じ切りました。



11



9



12



10

①空腹に耐えきれず、夜中こっそり抜け出す学徒②飛行場の話を孫に語り伝える、現在の良平③客席の笑いを誘ったシラミーズ④日の丸が象徴的な学徒⑤かわいらしい演技が光った和子に寄り添う主役の良平と昭子⑥観客の涙を誘った、昭子の熱唱⑦重労働を強いられる学徒⑧爆音とともに姿を現した飛行機⑨おにぎりの歌を披露する昭子と和子⑩化粧スタッフの技が光る開演前の準備作業⑪感動の再会を果たした良平と昭子⑫終演後、参加者の労をねぎらう観客の列

第26回奥州胆沢劇場「十五の春」幻の小山飛行場

感動の青春物語を披露

特集

情熱がっなぐ舞台

26回目の奥州胆沢劇場と共に、その歴史を振り返る